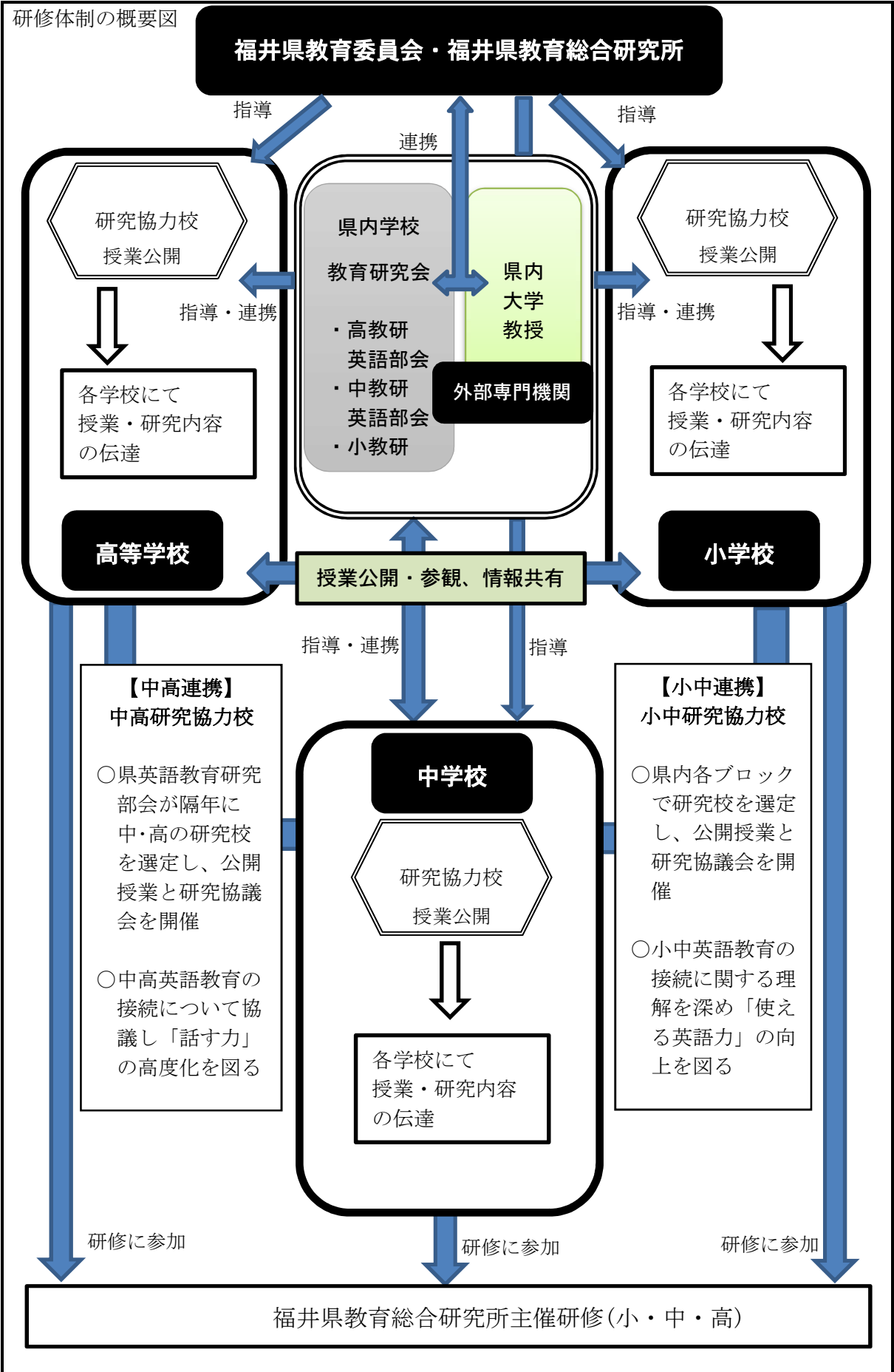


福井県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



福井県では、小学校外国語教育の早期化・教科化に向けた取組を2018年度より全小学校で先行実施するとともに、小中において英語力向上事業として県内各ブロックの小中学校から研究協力校（中学校8校、小学校15校）を指定し、それぞれの校種における英語教育の推進、小中接続した指導のための研究を進めてきた。また小中学校教員を対象に、教員の指導力向上、授業改善に向けた悉皆研修を行ってきた。

中高においては、県内英語教員が属する福井県英語教育研究会が主催となって隔年毎に中高の研究協力校を選定しており、県内中高英語教員は協力校が開催する公開授業と研究協議会に参加し、4技能統合型の指導や話す力の育成に向けた指導の接続を図っている。

引き続き研修や県英語研究会、市町教育委員会と連携した公開授業・研究協議会等を通して、小学校外国語から高校英語までの円滑な指導の接続を図り、授業の中で4技能が育成できる授業改善に向けた取組を進めていく。

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

「公立小学校、中学校および高等学校における英語教育実施状況調査」の結果を踏まえ、本県では、以下の目標設定と管理を行うこととする。

(小学校)

○教員の英語力について

授業における言語活動の充実に向け、効果的な英語でのやり取りやクラスルームイングリッシュの活用に関して研究会や研修等を実施。2022年度には、外国語科における授業中の英語使用状況50%以上を目標とする。

○研修実施回数および研修受講者数について

2020年度の研修実施回数は、県教育総合研究所主催研修1回と設定する。また、研修受講者数については、30名とする。市町教育委員会や県内各ブロック英語部会が主催する公開授業・研究協議会、校内研修等に県教育委員会指導主事も参加し、指導助言することで研修実施回数減に対応する。研修内容については、(3)研修の体系と内容の具体で示す。

○小学校専科について

小学校教員の新規採用試験においては、採用試験における外部試験の加点の導入や採用試験説明会の工夫により、一定の英語力を有する教員の採用を増やし、外国語指導ができる小学校教員の確保に向けた取組を進めている。2025年度には新規採用小学校教員の50%以上が一定の英語力を有する者となるよう目標を設定する。

(中学校)

○教員の英語力について

CEFR B2 レベル相当以上の英語力を有する中学校英語教員の割合は、全体の59.7%で、目標値60.0%にわずかに達しなかった。2019年度の目標は引き続き60.0%に設定し、求められる英語力に達していない教員に対しては、自身の英語力向上に向けた取り組みとして外部検定試験の受験を促していく。

○生徒の英語力について

CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有すると考えられる中学生の割合は、全体の61.4%で目標値の61.5%にやや達しなかった。本県では中学3年生に年1回の外部検定試験の受験料補助を行っているが、補助を利用せず、受験しなかった生徒や、上位級に挑戦しなかった生徒が多かったことも目標値に達しなかった要因の一つとなっている。

今後は、外部検定試験の受験料補助利用を促すとともに、1年生から豊富な語彙や表現に慣れ親しませることを目的とした県作成英語教材「OPINION」や文科省教材「Bridge」の授業等での活用により、3年生の目標レベルの英語力が身につくようにする。

○学習到達目標の整備状況について

公表については27.0%、達成状況の把握については50.7%という状況である。学習到達目標については、これらの項目で高い数値を達成することも重要であるが、教師はもちろん、生徒や保護者にとってわかりやすく、生徒が学習していく上での明確な指標であることも大切であり、状況に応じて内容を改善していく必要がある。市町教育委員会と連携し研修等で学習到達目標の公表、達成状況の把握について改善を図っていく。

○パフォーマンステストの実施状況について

ほとんどの中学校において、年間3～4回程度のパフォーマンステストを実施している。福井県の中学校は地区によって2学期制と3学期制をとっており、定期テストを4～5回で設定している学校が多い。小学校においても先行実施期間でパフォーマンステストを実施しており、中学校でも継続して実施することで生徒の話す力を伸ばすとともに、話す力の育成を意識した授業改善も進めている。

○生徒の授業における英語による言語活動時間の割合と英語担当教員の英語使用状況について

授業における言語活動の占める割合については、授業の半分以上の時間を言語活動で行う割合を2022年度までに80%を目標値として設定する。本県は2018年度より小学校外国語教育の早期化・教科に向けた取組を先行実施しており、小中連携して言語活動を中心に据えた授業改善を進めている。

授業では、英語でのやり取りが主活動となるよう、生徒が主体的に話すための発問を行い、また、テストでも英語での発問を設定することにより、指導と評価の一体化を図る。そうすることで必然的に英語の使用量が増えるような授業にし、生徒のより豊かな語彙習得、教員の英語力向上につなげていく。

○研修実施回数および研修受講者数について

2020年度の研修実施回数は、県教育総合研究所主催研修1回と設定する。また、研修受講者数については、30名とする。市町教育委員会や県内各ブロック英語部会が主催する公開授業・研究協議会、校内研修等に県教育委員会指導主事も参加し、指導助言することで研修実施回数減に対応する。研修内容については、(3)研修の体系と内容の具体で示す。

(高等学校)

○教員の英語力について

CEFR B2 レベル相当以上の英語力を有する高校英語教員の割合は、全体の93.9%であり、今年度の目標値91.5%を達成した。求められる英語力に達していない教員に対しては、自身の英語力向上に向けた取り組みとして外部検定試験の受検を促し、2020年度における目標値である92%の達成を目指す。

○生徒の英語力について

CEFR A2 レベル相当以上の英語力を有すると考えられる生徒の割合は、全体の58.4%であり、目標の55%を達成することができた。福井県では、2016年度から中学3年生、高校1、2年生に受検料の全額、一部補助をしており、外部検定試験受験者数や中学校での英検準2級以上取得数が増えている。引き続き、目標値を55%とし、中高連携して話す力の育成や豊かな語彙・表現を用いた英語指導により、英語を使える生徒の育成に努めていく。

○学習到達目標の整備状況について

現在、すべての学校において学習到達目標を設定している。公表については23.3%、達成状況の把握については、55.8%という状況である。CAN-DO形式の目標設定と評価を行うことで、教員が指導の足並みを揃えとともに、生徒の英語運用能力を向上させていくための授業改善を引き続き推進していく。

○パフォーマンステストの実施状況について

令和元年度は、すべての学科、科目において年間1回以上のスピーキングテストおよびライティングテストを行うことを目標としたが、普通科におけるコミュニケーション英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、専門学科および総合学科における英語表現Ⅰで目標を達成することができなかった。教科の特性に応じて、年間2～3回の実施を目標とし、内容や評価方法についても研修等の機会を利用して改善していくこととする。

○生徒の授業における英語による言語活動時間の割合と英語担当教員の英語使用状況について

言語活動時間の割合については、2022年度までに65%を目標値として設定する。学科や学年において授業内容は異なるが、教科書の内容理解を進めていくだけでなく、題材内容をもとに生徒の意見や考えを引き出し、英語で表現していくことを大切に授業や発問を重視した授業、ディベートなどを取り入れた授業を推進する。

なお、英語担当教員の英語使用状況については、2022年度までに発話を英語で行う割合60%を全ての英語担当教師の目標値として設定する。言語活動の授業に占める割合が向上していけば、それに伴い英語担当教員の英語使用状況も改善していくことが見込まれる。英語授業における言語活動の割合を増やすことと連動して、英語使用状況を改善していくように指導していく。

○研修実施回数および研修受講者数について

令和2年度の研修実施回数は、県教育総合研究所主催研修1回と設定する。研修内容については、(3)「研修の体系と内容の具体」で述べる。

(3) 研修の体系と内容の具体

1. 教員の資質能力の育成にかかる研修

教員の資質能力の育成に向けて、次に挙げる研修を県教育総合研究所主催で実施する。研修の評価については、研修後の質問紙調査によるものとし、その結果を検証し、研修の内容や研修時期、回数等の設定を行うものとする。

(小学校)

○小学校外国語研修（30名程度参加予定）

- ・小学校外国語教育の全面実施にともない、大阪樟蔭女子大学 菅正隆教授を講師として、新学習指導要領が求める言語活動への理解を深めるとともに、必然性のあるコミュニケーションを中心とした授業について研修を実施する。

(中学校)

○中学校英語教員指導力向上研修（30名程度参加予定）

- ・2021年度からの新学習指導要領に向け、大阪樟蔭女子大学 菅正隆教授を講師として、小中連携を意識した授業設計に関する研修を実施する。

(高等学校)

○高等学校英語教員指導力向上研修（30名程度参加予定）

- ・教科指導を充実するために、中堅英語教員を対象とした研修を実施する。

2. ALTの資質能力の向上にかかる研修

福井県教育委員会は、JETプログラム等により106名の英語ALTを任用している。チームティーチングはもちろん、授業外や学校外の活動にも一層の活用を推進していくために、以下の研修を実施する。

<p>○外国語指導助手の指導力等向上研修（11月、3月実施 のべ220名参加予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導能力向上を図るため、ALTおよび中高英語教員を対象とした研修を行う。 研修後に質問紙調査による評価を行い、次年度以降の研修内容に反映させる。 <p>○ALTによる授業公開および事後研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTの授業力改善のため、中学校および高等学校のALTがティームティーチング授業の公開と事後研究会を実施。（年5回程度実施）

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	ALTによる授業公開・事後研究会（高等学校）	
7月		
8月	小学校外国語研修 中学校英語研修 高等学校英語研修	大阪樟蔭女子大学教授 大阪樟蔭女子大学教授
9月	ALTによる授業公開・事後研究会（中・高等学校）	
10月	ALTによる授業公開・事後研究会（中・高等学校）	
11月	ALT指導力等研修	
12月	ALTによる授業公開・事後研究会（中学校）	
1月		
2月		
3月	ALT指導力等研修	
<p>【その他の取組】 県内各ブロック英語部会や市町教育委員会が主催する公開授業・研究協議会、校内研修等に県教育委員会指導主事も参加し、授業改善を推進</p>		

